

旭川開発建設部

上川管内で初のシーニックバイウェイ北海道とかわたびほっかいどうとの共創

～第9期北海道総合開発計画 官民の垣根を越えた共創の取組～

- 第9期北海道総合開発計画では、多様な主体が総力を結集し、分野を越えた連携・協働により、新しい価値を生み出す取組である「官民の垣根を越えた共創」が重要とされています。
- 旭川開発建設部では、「道北地域づくりワークショップ」や「道北地域づくりキックオフシンポジウム」を開催し16個の道北地域づくりアクションプランを作成。
- 天塩川シーニックバイウェイエリアで「きた北海道ルートと天塩川を活用した地域づくり」について議論し、河川・道路・農業・地域の共創に取り組んでいるところ。
- 第1弾として、天塩川シーニックバイウェイとかわたびほっかいどうの共創を具体化した「河川利用者のための経路案内」の設置を企画。

○シーニックバイウェイ北海道 ・天塩川シーニックバイウェイ きた北海道エコ・モビリティの推進

「道（Road=自転車・歩く）」と「川（River=カヌー）」と「鉄道（Rail=JR宗谷本線）」が並行する地域性を活かして『3つのR』を繋ぎ、自然×風景×人×アクティビティ×食などを楽しみながら進む旅「エコ・モビリティ」を推進。



○かわたびほっかいどう ・天塩川 北海道名付け親も旅した北の大河

天塩川は「北海道」の名付け親と言われる松浦武四郎が調査した川として知られています。北海道では石狩川に次ぐ2番目の長さがあり、河口までの158kmをノンストップで川下りが楽しめるとして多くのカヌーイベントが開催されます。

○きた北海道ルートと 天塩川を活用した 地域づくりの取組

旭川開発建設部では、河川・ダムの水辺空間や道路空間を活用し、地域の賑わい創出をするため、カヌーやサイクル関係者と連携し、取組を推進します。



天塩川をカヌーで下る時、河口や休憩施設までの距離が把握できるように天塩川に架かる国道橋に経路案内設置を企画。



※写真は合成